



主要な農作物の生育情報

平成29年度 第4号

(平成29年7月7日)

福島県農林水産部農業振興課



【作物】

1 水 稻

7月4日現在の農業総合センターの生育調査では、各調査場所とも草丈が平年より短く、茎数は平年より多くなっています。他の形質では、本部（郡山）の主稈葉数は平年より少なく、葉色は平年並から淡く、会津地域研究所（会津坂下）の主稈葉数は平年並、葉色は平年より濃く、浜地域研究所（相馬）の主稈葉数と葉色は平年並となっています。

主稈出葉からみた生育は、本部（郡山）では平年より4～7日遅れています。一方、5月1日移植の天のつぶとひとめぼれにて7月3日に幼穂長1mmの茎が数本確認されており、幼穂形成始期は平年よりやや遅い程度になると予想されます。会津地域研究所（会津坂下）と浜地域研究所（相馬）の生育は平年並です。

表1 水稻の生育状況（※）

調査場所	品 種	移植期 (月. 日)	7月4日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (枚)	葉色 (SPAD502値)
本 部	コシヒカリ	5. 1	53.3 (94%)	805 (117%)	10.1 (-0.6)	32.1 (-2.9)
	天のつぶ	5. 1	51.8 (90%)	570 (92%)	9.8 (-0.4)	36.6 (-3.7)
	ひとめぼれ	5. 1	50.5 (92%)	788 (108%)	10.1 (-0.5)	35.1 (-2.6)
	コシヒカリ	5.15	47.0 (91%)	763 (108%)	9.6 (-0.3)	35.5 (-0.7)
	天のつぶ	5.15	51.0 (97%)	680 (112%)	9.0 (-0.4)	40.3 (+0.2)
	ひとめぼれ	5.15	45.2 (89%)	768 (107%)	9.5 (-0.5)	37.5 (-0.9)
会津地域 研 究 所	コシヒカリ	5.20	53.1 (92%)	777 (109%)	10.5 (-0.1)	38.6 (+2.6)
	ひとめぼれ	5.20	54.0 (98%)	923 (122%)	10.4 (0.0)	42.1 (+3.3)
浜 地 域 研 究 所	コシヒカリ	5.10	53.9 (91%)	847 (122%)	9.7 (-0.1)	38.0 (+0.8)
	ひとめぼれ	5.10	52.9 (90%)	847 (117%)	9.9 (0.0)	40.7 (+0.3)

※ 調査場所は、本部（郡山）、会津地域研究所（会津坂下）、浜地域研究所（相馬）。

葉色は、SPAD502による測定値。（ ）内の数字は、前5ヶ年平均値との比較値を示す。

2 大 豆

農業総合センター本部の標播（5月31日）では播種後の降雨による土壌固化（クラスト化）、浜地域研究所の標播（6月8日）では土壌乾燥と低温の影響により出芽期が遅れ、出芽日数が長くなりました。

表2 大豆の生育状況（※）

調 査 場 所	品 種	播植期 (月. 日)	出芽期 (月. 日)	出芽日数 (日)
本 部	タチナガハ	5.31 (±0)	6.13 (+2)	13 (+2)
		6.20 (+1)	6.27 (±0)	7 (-1)
	あやこがね	5.31 (±0)	6.13 (+2)	13 (+2)
会津地域研究所	あやこがね	5.30 (-1)	6. 8 (±0)	9 (+1)
		6.20 (-1)	6.27 (-1)	7 (±0)
浜地域研究所	タチナガハ	6. 8 (-3)	6.23 (+5)	15 (+8)
		6.23 (-1)	6.30 (-1)	7 (±0)

※ 調査場所は、本部（郡山）、会津地域研究所（会津坂下）、浜地域研究所（相馬）。

()内の数字は、前5ヶ年平均値との差を示す。

【野菜】

1 夏秋きゅうり

5月下旬定植の露地栽培の生育は主枝摘心前後であり、収穫は主枝下段から中段のきゅうりが収穫されています。6月の低温の影響等により平年より10日程度生育が遅れていますが、病害虫の発生は少なく、今後は収穫量の増加が見込まれています。

病害虫は一部ほ場にアブラムシ類が発生しています。

2 夏秋トマト

4月上旬定植作型の収穫は、平年並の5月末から始まり、現在10段花房の開花期を迎えています。収穫量は6月の低温の影響により着色に時間を要しており、平年よりやや少なくなっていますが肥大は良好なほ場が多く見られ、今後収穫量の増加が見込まれます。

病害虫は一部ほ場にアザミウマ類、コナジラミ類が発生しています。

3 サヤインゲン

5月下旬定植の露地栽培は、乾燥等の影響により一時生育が停滞しましたが、平年並の6月下旬より収穫が始まりました。6月の低温等の影響により肥大に時間を要していますが、花落ちは見られず今後は収穫量の増加が見込めます。

4 夏秋ピーマン

4月下旬定植のトンネル栽培の収穫は、平年並の6月中旬より始まりました。6月の低温の影響で、ほ場によっては平年より7～10日程度の生育遅れが見られますが、今後は天候により生育の回復が見込まれます。

【果樹】（7月1日現在：農業総合センター果樹研究所）

1 もも

暦日比較では、「あかつき」は縦径が48.0mmで平年比102%、側径が46.9mmで平年比104%と平年よりやや大きく、「ゆうぞら」は縦径が48.8mmで平年比106%、側径が45.4mmで平年比111%と平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「あかつき」は平年並で、「ゆうぞら」は平年より大きい状況です。

DVRモデルによる「あかつき」の収穫予測では、本年の収穫開始は7月31日頃、収穫盛りは8月3日頃で、平年より2日早い見込みです。

2 なし

暦日比較では、「幸水」は縦径が34.7mmで平年比110%、横径が41.9mmで平年比113%、「豊水」は縦径が35.8mmで平年比108%、横径が39.1mmで平年比111%と両品種ともに大きい状況です。また、満開後日数による比較でも、「幸水」、「豊水」とともに平年より大きい状況です。

DVRモデルによる「幸水」の収穫予測では、収穫盛期が8月30日と推測され、平年より1日早い見込みです。

3 りんご

暦日比較では、「つがる」は縦径が53.3mmで平年比110%、横径が61.0mmで平年比112%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が44.1mmで平年比100%、横径が48.3mmで平年比104%と平年よりやや大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「つがる」は平年より大きく、「ふじ」は平年並の肥大状況です。

【花き】

1 キク類

7月咲き露地栽培で、県北のコギクではほぼ平年並の生育で出荷が進んでいるが、標高の高い所ではやや遅れています。

8月咲き及び9月咲きの露地栽培は、平年並の生育となっており、8月咲きではほぼ発雷しています。

各地でアブラムシ類の発生が多くみられ、アザミウマ類、オオタバコガなどが散見されています

が、白さび病の発生は少ない状況です。

2 リンドウ

極早生は、6月下旬から出荷が始まり、前年よりはやや遅いものの、ほぼ平年並の開花期となっていますが、草丈については少雨の影響でやや低い状況です。早生や中晩生においても草丈が低く推移していましたが、徐々に平年並に追いついてきました。発雷期についても平年並となっています。

病害虫では、葉枯病の発生は少なく、アザミウマ類やハダニ類、リンドウホソハマキの被害が増えてきています。

3 宿根カスミソウ

会津地方の越冬株は、5～6月の月以降気温が低めに推移していることから生育・出荷ともに1週間程度遅れています。新植株の定植が順次行われており、生育は順調です。

病害虫の発生について、特に問題となるものではありません。

4 トルコギキョウ

半促成栽培～季咲き栽培については、低温の影響で収穫が1週間から10日程度遅れていますが、品質は平年並みとなっています。抑制の作型は順次定植が行われています。

一部でアザミウマ類の発生が見られます。

【飼料作物】

1 牧草

牧草は、5月中旬から1番草の収穫作業が行われ、収量は平年並からやや少なくなりましたが、天候にも恵まれ、品質は良好となりました。現在、2番草の再生期であり、7月中旬から収穫作業が行われる見込みです。

2 飼料用とうもろこし

飼料用とうもろこしは、現在8葉期前後で、順調に生育しています。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）等を活用し、適切に対応しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiikujyohou>